

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 32人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30
(H28.5現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

自然再生協議会全国会議(中海自然再生協議会)

【報告者】広島県自然環境課 村田 博史

昨年度、芸北で開催された「環境省主催」自然再生協議会全国大会が今年度は、中海自然再生協議会が受入機関となり平成28年10月25日・26日の日程で松江市で開催されました。当協議会からは、中越会長と事務局の村田が参加しました。

1日目は、現地調査が行われ、最初に「道の駅本庄」で地産地消の物産品などの販売についての取組みを視察しました。

中海自然再生協議会【自然再生の目標】

昭和20年代後半から30年代前半の「豊かで遊べるきれいな中海」であり、豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環の再構築を目指す。

そのため、「よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海」を合言葉に、次の5つの推進の柱(大きな目標)を設定し、事業を推進する。

- 1)住民参画型地域作り
- 2)環境教育の推進
- 3)ラムサール条約に基づく水鳥との共存
- 4)アマモ場の再生と赤貝(サルボウ)の復活
- 5)水質浄化と底質改善による汽水域生態系保全

その後、大根島に移動し、オゴノリ刈りを体験させて頂きました。

この取組は中海自然再生事業実施計画のなかで海藻類の回収及び利用事業として位置付けられ、大量発生してアサリなどの底生生物を斃死させている現状から、回収だけに留まらず、さらにその利用を図るための堆肥化や食用化に関するものです。

豊饒の海であった昭和30年代前半までの中海では、海藻類は肥料や食料として盛んに利用されてきました。中海の海藻は、成分分析とこれまでの各地における実証試験の結果、カリウムの豊富な安全・安心な有機肥料として有望であることが示され、先人の知恵を再び活かし、海藻の回収で中海を浄化し、耕作地の地力の向上を図り、安全・安心な作物を育てるといった活動に多くの周辺住民が関わることにより、循環型地域社会の構築を図るというものです。



☆ スジアオノリようかん

中海の環境学習として本庄小学校の子ども達と「スジアオノリの養殖」を行っていたところ、「これで何か作れたらいいな〜」という子どもの想いが、大人の心を動かし、『スージー・スイーツ』が誕生しました!



☆ オゴノリ刈り(中越会長)

夕方、会場を松江テルサに移し、開催地協議会会長の挨拶に続き、総合地球環境学研究所の菊池氏により講演「自然再生の社会的評価」があり、懇親会で交流を深めました。

2日目は、分科会でテーマに沿った課題の議論が行われ全体発表の後、総括が行われました。

あっという間の2日間でしたが、何かを掴んで帰ってきたことは確かです。しかし、このニュースレターでは全てを御案内することはできません。御希望がありましたら資料を送付しますので事務局までお申し出ください。ありがとうございました。